

子どもの本だな 59

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

### きつねのホイティ

シビル・ウエッタシンハ さく  
まつおか きょうこ やく (福音館書店)

スリランカの小さな村の森にきつねのホイティが住んでいました。ある晩、ホイティがのぞき込んだアングウさんの家では、カレーや魚のフライなどおいしそうな晩ごはんの真っ最中。ホイティは庭に干してあったきものを着て旅人に変装し、ごはんをごちそうになりました。ホイティはマンゴウさん、ランゴウさんの家でもごちそうになりますが、うまくだましてやったと歌い踊っているところを、3人に聞かれてしまいました。次に村に来て、物干し場にあったピンクのサリーをまとい花嫁姿になったホイティを、おかみさんたちが「しっぽはやしたはなよめさん おひげはやしたはなよめさん」とはやしたてました。

スリランカの村のおおらかな暮らしを、のびやかな線と鮮やかな色彩で描いた大判の絵本。5歳くらいから楽しめます。(片木)

### 銀のシギ

エリナー・ファージョン 作  
石井 桃子 訳 (岩波書店)

ものぐさな娘ドルは、王様にノーフォーク一番の糸紡ぎと思われ、台所いっぱい麻を30分で糸に紡ぐよういわれました。途方にくれるドルの前に黒い小鬼があれわれ、仕事を片づけてくれました。

ノーフォークの女王となり1年たったある日、小鬼が再びあらわれ、ドルに自分の名前を当てると迫ります。1日のうちに3回で当てられなければドルと生まれたばかりの王女は小鬼のものになるのです。ドルの妹ポルは小鬼の名前を探るため、黒い獣の皮をまとい、魔ノ森に潜り込みました。うまく小鬼に取り入ったものの、激しく踊るうち、獣の頭がはずれてしまいました。

イギリスの昔話「トム・ティット・トット」をもとに、登場人物の性格や構成は豊かに肉付けされています。劇のようにテンポよくユーモラスに展開する一方で、「月の男」のお話も織り込み、静かな美しさも見せます。8歳くらいから楽しめます。(竹内)

9月	10月	9・10月の移動図書館 (いずれも木曜日です)				
6日	4日	塚森 地域内 10:30~10:50	沖代 地域内 11:00~11:20	福地(三反長) 地域内 14:30~14:50	米田 公会堂 15:00~15:20	竹広南 公民館 15:30~15:50
13日	11日			原池団地 公民館 15:00~15:20	山田 掲示板前 15:30~15:50	原 太田東地区農村 交流センター 16:00~16:30
20日	18日	広坂 公民館 10:30~10:50	上太田 公民館 11:00~11:20		太子 ニュータウン 公民館 15:30~15:50	吉福 公民館 16:00~16:30

### お知らせ

毎週土曜日に  
「おはなしの時間」  
を開いています。

- ・4歳~2年生 11:00~
- ・3年生~中3 11:30~

9月のおはなしは、  
「王子さまの耳は、ロバの耳」  
「三枚のお札」「まめたろう」  
などを予定しています。  
詳しくはプログラムをご覧ください。

# 『物語を忘れた外国語』 黒田 龍之助 著

新潮社 191頁 2018年4月刊 1,600円 (請求記号) 807

著者は、ロシア語学科を卒業後、通訳や講師などを務めながら、ロシア語以外にも英語、ウクライナ語、ペラルーシ語、フランス語、イタリア語、ドイツ語など、多くの外国語を「齧って」きた言語学者である。

ある時、チェコ共和国の大学で通訳について講演することになった。何語で語ればよいか悩んだ末、日本語で講演するが、他に1回だけチェコ語で話をするに決めた。ロシア語ほど堪能でないチェコ語能力をあげるために、著者はどうしたか。まず、チェコ語の辞典から、基礎単語をひたすらパソコンで打ち込む。それと並行して、チェコ語で読書をするという。問題集を繰り返すより、物語を楽しむながら外国語に慣れていく。邦訳で自身を知っている本や、耳から生の会話が入ってくる映画が効果的である。著者の外国語勉強法は、とても楽しそうだった。

大学院時代には、外国語をどうしたらよい日本語に訳せるかに興味があり、その秘訣をさぐるべく読書が続けるうち、「翻訳英文法」(安西徹雄著)に出合った。直訳すれば「猫を追って木に登ろうとする犬の試みは無に帰した」となる例文を、安西氏は「犬は、猫の後を追いかけて何度も木に登ろうとしたけれども、無駄だった」と訳す。「dog's attempts」(犬の試み)を、所有格ではなく主語として「犬はくしようとする」と訳し、そのうえで attempts は複数形なので「何度も登ろうと」と訳すなどの様々な工夫に、著者は「日本語がさらに生き生きとしてきて、まるで手品を見るようだった」と感嘆する。

第1章から17章まで、雑誌「小説新潮」に連載した、外国語と本にまつわるエッセイをまとめたもの。それぞれの章は独立しているが、前章の内容と少しずつつ重なり、全体が外国語と物語へのつきない興味にあふれている。

私の本棚に眠っている、子どもの時大好きだった物語の作者の未邦訳原書を、再度開いてみたくなった。(池田)

## 9月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	<del>4</del>	5	6	7	8
9	10	<del>11</del>	12	13	14	15
16	17	<del>18</del>	<del>19</del>	20	21	22
23	24	<del>25</del>	<del>26</del>	27	28	29
30						

## 10月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
1	<del>2</del>	3	4	5	6	
7	8	<del>9</del>	<del>10</del>	11	12	13
14	15	<del>16</del>	17	18	19	20
21	22	<del>23</del>	24	25	26	27
28	29	<del>30</del>	31			

24日から31日は、特別整理のため休館

## お知らせ

### ストーリーテリング

#### 入門連続講座(全4回)

- ・9月から12月の第1金曜日 10:00~12:00
- ・講師：芦田悦子さん
- ・対象：経験が概ね5年未満の方
- ・申込みは図書館まで

- \* カレンダーの×印は休館日
- \* □は館内整理日  
返却のみ受付(10:00~17:00)
- \* 開館時間は10:00~18:00  
金曜日は20:00まで開館

## 地下水

今年の夏の暑さは異常である。あまりの猛暑に気象庁が災害と認識するほどである。テレビニュースでは、キャスターがしきりに「ためらわずエアコンを使って下さい」と呼びかけている。毎朝、網干駅から図書館まで歩いて出勤しているが、図書館に到着するころには、滝のように汗を流している。毎年何となく、「今年の夏は去年よりも暑い」だとか、「年々暑くなってきている」と感じていたが、今年は確信を持って言える。今年の夏は去年より暑い。

しかし、そんな災害レベルの猛暑であつても、毎日多くの子どもたちが図書館に足を運んでくれている。絵本を読み、読書感想文の本を借り、連日とても賑やかである。中には、自分の作った工作を見せに来てくれる子もいたりした。その作品が、紙コップに開けられた穴をのぞくと、煌びやかな虹が映るといったもので、年甲斐も無く楽しませてもらった。図書館の外で遊ぶ子どもの姿も見られる。虫取り網を片手に走り回る様子は、とても暑さを感じさせない。自分も子どもの頃は、暑さを忘れて外で遊びまわっていたはずなのだが、いったいいつから夏は外出したくないと考えるようになってしまったのか。それはともかく、子どものエネルギー溢れる姿には、とても元気をもらっている。これらを糧にして暑さに負けぬよう、仕事に尽力していきたい。

(光藤)

